

## 歩道の維持管理作業（補修等）作業計画に対する

### 登山道技術指針運用・活用ワーキンググループ意見（事務局まとめ）

計画者：Asahidake Trail Keeper 担当：藤 このみ 事務局受付：令和元年8月30日

事務局受付：令和元年8月30日

#### （施工方法・施工予定力所）

- 必要性も緊急性も高い場所だと思われるため、提案の方法ですすめていただきたい。施工後の経過の観察が重要だと思われるので、その結果を適宜ワーキンググループで共有していただきたい。（愛甲委員）
- 道の中央あるいは 飛石状態でよいので 上の坂のようにコンクリートで石をつないで設置してはどうですか。中央に石がゴロゴロしていると両サイドの土留め基盤上を歩くので浸食がすすみます。今は浸食に耐えている固い基岩を守ることも大切だと考えます。（三木委員）
- 道にダムをつくるような石積ですが これはダムの中に水がたまると脇の弱いところから浸食されて道が広がるのは観察ズミですね。ダム中央から水が流れ落ちるように低くして さらにその下に浸食止めの石を置かれるのがよいと思います。これを少し高く設置すると脚の上がない年配者には歩きやすくなるのではないのでしょうか。ここは利用者が一番多い場所なので、年配者にも優しく段差については考えてください。（三木委員）

#### （導流工 A）

- 溝の修復は土砂を取り除いて 後は巡視のたびに溝掃除してください。（三木委員）

#### （土砂採取予定力所）

- 予定箇所から採取する土砂の量、採取する方法、運搬を一般登山者にお願いすることなどについて、もう少し具体的に説明があるとよいです。（愛甲委員）

#### （昨年度の施工状況と評価について）

- 法面での施工について、最下部への石の埋没、部分的な配置を検討されており、その効果がどの程度か今後の参考にもなるので、経過の観察をお願いしたい。実生の植物が成長するののかも現状では不明であり、個体の成長度合いも観察されることを期待します。（愛甲委員）
- 植生の回復について 経過を見ているそうですが、凍上には負けていきます。石を設置することで細粒となっている根の伸長する層を守ることです。また、物理的に抑え込む方が数十年待つよりはよいので 強固なマット資材の使用を提案します。それで沼の平のように先駆種を蒔きつけて植生の回復を促進することです。但し、そのような箇所が増水で流失するようではダメなので、その点は現地を見極めて実施してください。（三木委員）